

校種・教科等	中学・国語	受審番号	氏名
--------	-------	------	----

『中学校国語科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 3年2組教室
 (3) 学年・学級 第3学年2組(34名) 使用教科書 現代の国語 3 (三省堂) P.132~P.135

(4) 単元名 論語

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

これまで、歴史的仮名遣いや現代と意味の異なる古語などについて学習し、古典の基礎的な事項の知識を身に付けるとともに、古典特有のリズムを味わいながら音読して、古典の世界に親しんできた。また、第1学年では故事成語「矛盾」、第2学年では漢詩の学習を行い、漢文独特の表現について学んでいる。さらに、様々な古典作品の学習を通して、古人と現代の自分たちの思いには共通する部分があることも学習している。

【単元のねらい】

- ・漢文の響きやリズムに注意しながら読むことを通して、「論語」の世界に親しむこと。
- ・孔子のものの見方や考え方を捉え、「論語」の言葉をきっかけにして、生き方や学び方について自分の考えをもつこと。

【生徒の状況】

古典特有のリズムを味わいながら音読する学習を第1学年から積み重ねてきており、訓読の仕方についての理解はできているが、読み慣れている生徒とそうでない生徒との間に大きな差がある。また、古典を読んで登場人物や作者の思いを豊かに想像したり、作者のものの見方や考え方を捉えたりすることに、苦手意識を持っている生徒が多い。

(6) 指導計画(全4時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (1時間)	OP.132 下の「目標」を確認し、学習の見通しをもつ。 OP.132 1~4行目の、『論語』の解説及び P.133 下の説明を読み、『論語』の成り立ちや概要を知る。 OP.135「訓読の仕方の確認」を読み、訓読の方法や返り点の種類などを確認する。 ○全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字を確認する。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能
第二次	OP.132「子曰はく、『吾十有五にして…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。 OP.133「子曰はく、『故きを温めて…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能 思考・判断・表現
	OP.133「子曰はく、『己の欲せざる所…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。 OP.133「子曰はく、『学びて時に之を…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能 思考・判断・表現
第三次 (1時間)	○前時までの学習を踏まえて、「論語」の他の言葉にも触れる。 ○心に響いた言葉を引用し、自分の体験や事例と関連づけて、生き方や学び方について考えたことを文章にまとめる。 ○学習目標をもう一度確認し、学んだことの振り返りをする。	一斉 個別 班又はペア	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

※ 教科独自に面接審査室に準備しているもの………本時で扱う漢文の一部分(揭示用)

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	中学・国語	受審番号		氏名	
--------	-------	------	--	----	--

『中学校国語科』 模擬授業課題 『中学校国語科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 3年2組教室
 (3) 学年・学級 第3学年2組(34名) 使用教科書 現代の国語 3 (三省堂) P.132~P.135

(4) 単元名 論語

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

これまで、歴史的仮名遣いや現代と意味の異なる古語などについて学習し、古典の基礎的な事項の知識を身に付けるとともに、古典特有のリズムを味わいながら音読して、古典の世界に親しんできた。また、第1学年では故事成語「矛盾」、第2学年では漢詩の学習を行い、漢文独特の表現について学んでいる。さらに、様々な古典作品の学習を通して、古人と現代の自分たちの思いには共通する部分があることも学習している。

【単元のねらい】

- ・漢文の響きやリズムに注意しながら読むことを通して、「論語」の世界に親しむこと。
- ・孔子のものの見方や考え方を捉え、「論語」の言葉をきっかけにして、生き方や学び方について自分の考えをもつこと。

【生徒の状況】

古典特有のリズムを味わいながら音読する学習を第1学年から積み重ねてきており、訓読の仕方についての理解はできているが、読み慣れている生徒とそうでない生徒との間に大きな差がある。また、古典を読んで登場人物や作者の思いを豊かに想像したり、作者のものの見方や考え方を捉えたりすることに、苦手意識を持っている生徒が多い。

(6) 指導計画(全3時間)

時数	学習内容	活動・指導形態	評価計画
1時間	OP.132 下の「目標」を確認し、学習の見通しをもつ。 OP.132 1~4行目の、『論語』の解説及び P.133 下の説明を読み、『論語』の成り立ちや概要を知る。 OP.135「訓読の仕方の確認」を読み、訓読の方法や返り点の種類などを確認する。 ○全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字を確認する。 OP.132「子曰はく、『吾十有五にして…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能 思考・判断・表現
1時間	OP.133「子曰はく、『故きを温めて…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。 OP.133「子曰はく、『己の欲せざる所…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能 思考・判断・表現
1時間 本時	OP.133「子曰はく、『学びて時に之を…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。 ○これまでの学習を踏まえて、「論語」の他の言葉にも触れる。 ○心に響いた言葉を引用し、自分の体験や事例と関連づけて、生き方や学び方について考えたことを文章にまとめる。 ○学習目標をもう一度確認し、学んだことの振り返りをする。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

※ 教科独自に面接審査室に準備しているもの………本時で扱う漢文の一部分(揭示用)

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	中学・国語	受審番号	氏名
--------	-------	------	----

『中学校国語科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 3年2組教室
 (3) 学年・学級 第3学年2組(34名) 使用教科書 現代の国語 3 (三省堂) P.132~P.135

(4) 単元名 論語

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

これまで、歴史的仮名遣いや現代と意味の異なる古語などについて学習し、古典の基礎的な事項の知識を身に付けるとともに、古典特有のリズムを味わいながら音読して、古典の世界に親しんできた。また、第1学年では故事成語「矛盾」、第2学年では漢詩の学習を行い、漢文独特の表現について学んでいる。さらに、様々な古典作品の学習を通して、古人と現代の自分たちの思いには共通する部分があることも学習している。

【単元のねらい】

- ・漢文の響きやリズムに注意しながら読むことを通して、「論語」の世界に親しむこと。
- ・孔子のものの見方や考え方を捉え、「論語」の言葉をきっかけにして、生き方や学び方について自分の考えをもつこと。

【生徒の状況】

古典特有のリズムを味わいながら音読する学習を第1学年から積み重ねてきており、訓読の仕方についての理解はできているが、読み慣れている生徒とそうでない生徒との間に大きな差がある。また、古典を読んで登場人物や作者の思いを豊かに想像したり、作者のものの見方や考え方を捉えたりすることに、苦手意識を持っている生徒が多い。

(6) 指導計画(全4時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (1時間)	OP.132 下の「目標」を確認し、学習の見通しをもつ。 OP.132 1~4行目の、『論語』の解説及び P.133 下の説明を読み、『論語』の成り立ちや概要を知る。 OP.135「訓読の仕方の確認」を読み、訓読の方法や返り点の種類などを確認する。 ○全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字を確認する。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能
第二次 (1時間・本時)	OP.132「子曰はく、『吾十有五にして…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。 OP.133「子曰はく、『故きを温めて…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能 思考・判断・表現
	OP.133「子曰はく、『己の欲せざる所…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。 OP.133「子曰はく、『学びて時に之を…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能 思考・判断・表現
第三次 (1時間)	○前時までの学習を踏まえて、「論語」の他の言葉にも触れる。 ○心に響いた言葉を引用し、自分の体験や事例と関連づけて、生き方や学び方について考えたことを文章にまとめる。 ○学習目標をもう一度確認し、学んだことの振り返りをする。	一斉 個別 班又はペア	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

※ 教科独自に面接審査室に準備しているもの………本時で扱う漢文の一部分(揭示用)

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	中学・国語	受審番号		氏名	
--------	-------	------	--	----	--

『中学校国語科』 模擬授業課題 『中学校国語科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 3年2組教室
 (3) 学年・学級 第3学年2組(34名) 使用教科書 現代の国語 3 (三省堂) P.132~P.135

(4) 単元名 論語

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

これまで、歴史的仮名遣いや現代と意味の異なる古語などについて学習し、古典の基礎的な事項の知識を身に付けるとともに、古典特有のリズムを味わいながら音読して、古典の世界に親しんできた。また、第1学年では故事成語「矛盾」、第2学年では漢詩の学習を行い、漢文独特の表現について学んでいる。さらに、様々な古典作品の学習を通して、古人と現代の自分たちの思いには共通する部分があることも学習している。

【単元のねらい】

- ・漢文の響きやリズムに注意しながら読むことを通して、「論語」の世界に親しむこと。
- ・孔子のものの見方や考え方を捉え、「論語」の言葉をきっかけにして、生き方や学び方について自分の考えをもつこと。

【生徒の状況】

古典特有のリズムを味わいながら音読する学習を第1学年から積み重ねてきており、訓読の仕方についての理解はできているが、読み慣れている生徒とそうでない生徒との間に大きな差がある。また、古典を読んで登場人物や作者の思いを豊かに想像したり、作者のものの見方や考え方を捉えたりすることに、苦手意識を持っている生徒が多い。

(6) 指導計画(全3時間)

時数	学習内容	活動・指導形態	評価計画
1時間	OP.132 下の「目標」を確認し、学習の見通しをもつ。 OP.132 1~4行目の、『論語』の解説及び P.133 下の説明を読み、『論語』の成り立ちや概要を知る。 OP.135「訓読の仕方の確認」を読み、訓読の方法や返り点の種類などを確認する。 ○全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字を確認する。 OP.132「子曰はく、『吾十有五にして…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能 思考・判断・表現
1時間・本時	OP.133「子曰はく、『故きを温めて…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。 OP.133「子曰はく、『己の欲せざる所…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能 思考・判断・表現
1時間	OP.133「子曰はく、『学びて時に之を…』と。」について、 ・漢文の響きやリズムに注意して読み、訓読の仕方に慣れる。 ・この言葉に表れている、孔子のものの見方や考え方を捉える。 ○これまでの学習を踏まえて、「論語」の他の言葉にも触れる。 ○心に響いた言葉を引用し、自分の体験や事例と関連づけて、生き方や学び方について考えたことを文章にまとめる。 ○学習目標をもう一度確認し、学んだことの振り返りをする。	一斉 個別 班又はペア	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

※ 教科独自に面接審査室に準備しているもの………本時で扱う漢文の一部分(揭示用)

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。